PMS-2022(13020)

施工説明書

ハンドシャワー付 シングルレバー混合水栓

SF-HM451SYX型

工事店様へのお願い

貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。また、定期的に交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

商品の機能が100％発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客さまにお渡しください。

1.施工の前に

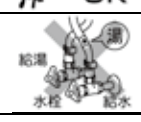
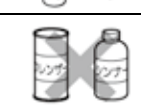
安全上のご注意

●施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
●ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
●いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客様に引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
●この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

用語および記号の説明

警 告… 「取扱を誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。」
注 意… 「取扱を誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」
(注意)… 「注意しなさい！」（上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）
(禁止)… 「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）
(分解禁止)… 「分解してはいけません！」
(指示)… 「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

⚠ 注 意

(禁止)	**水道水および飲料可能な井戸水以外は使用しないでください。** ※商品の内部腐食により、漏水の原因となります。 ※飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいいます。	
(禁止)	**湯水を逆に配管しないでください。** ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。	
(禁止)	**給湯器の給湯温度設定は85℃以上で使用しないでください。** ※水栓が破損し、ヤケドや家財を濡らす恐れがあります。	
(禁止)	**衝撃を与えたり、もたれかかったりしないでください。** ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。	
(禁止)	**トイレ用洗剤、住宅用洗剤、漂白剤、ベンジン、シンナー、トイレ用ウェットティッシュ、クレンザー、クレゾールを使用しないでください。** ※ヒビ割れや変色の原因となります。	
(分解禁止)	**修理技術者以外の人は水栓を分解したり、修理したりしないでください。** ※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。	
(指示)	**ヤケドの恐れがないところまで水圧変動を押えた配管設備にしてください。** ※他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯音が急上昇しヤケドをする恐れがあります。	
(指示)	**フレキホースの差し直しやストレーナーの掃除をする際は、必ず湯側水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。** ※湯・水が噴出してヤケドをしたり、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。	
(禁止)	**【寒冷地用の場合】** **水抜栓は水抜き以外の目的で開けないでください。** ※湯水が噴き出し、ヤケドや家財等を濡らす恐れがあります。	
(指示)	**【寒冷地用の場合】** **お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。** **寒冷地仕様の水抜方法は、取扱説明書を参照ください。** ※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。	

本製品の仕様と条件

給湯器設定温度	85℃以下	使用可能水質	水道水および飲用可能な井戸水(※1)
使用環境温度	【一般地用】 0～40℃	但し、内部の水を凍結させないでください。	
	【寒冷地用】 −20～40℃		
給水給湯接続	G1/2		
圧 力 条 件	0.05MPa(流動圧)～0.75MPa(静水圧)　給水圧力≧給湯圧力		
取 付 条 件	水栓取付穴：φ37±2mm、カウンター厚：6～30mm		

※1 飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいう。

ガス給湯器（比例式制御式：16号相当）と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	A＋0.10MPa(流動圧)　※Aはガス給湯器の最低作動圧力です。
最 高 圧 力	0.75MPa(静水圧)

測定条件は次の通りです。
●レバーハンドルは全開。
●給水温度5℃、吐出温度42℃。
●給水圧力はガス給湯器直前における流動圧です。
●ガス給湯器の設定温度は最高温度です。

貯湯式温水器と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	0.05MPa(流動圧)
最 高 圧 力	0.75MPa(静水圧)

●給水圧力と給湯圧力の差を小さくしてください。温度調節が容易になり使いやすくなります。
●給湯圧力は水栓直前における流動圧です。

その他の条件

●給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力（0.20～0.34MPa）に減圧してください。
●給湯に蒸気は使用できません。
●給湯温度は使用する最高温度より約10℃高く設定してください。
●不意の出湯によるヤケド防止のため、**給湯器の設定温度は60℃以下**をおすすめします。

施工前のご注意

取付けに必要な工具

●取付けにはプラスドライバー、スパナ（対辺8）、モンキーレンチ（呼び250以上）、プライヤー、マイナスドライバーが必要です

止水栓と点検口を設けてください。

●取付後の流量調節及び保守点検のために、必ず止水栓（別売）と点検口を設けてください。
●使い勝手や性能発揮のために、**流量調節をしてください。**特に水圧が高い場合など、流量調節がされていないと漏水・破損の恐れがあります。

補強材を使う場合

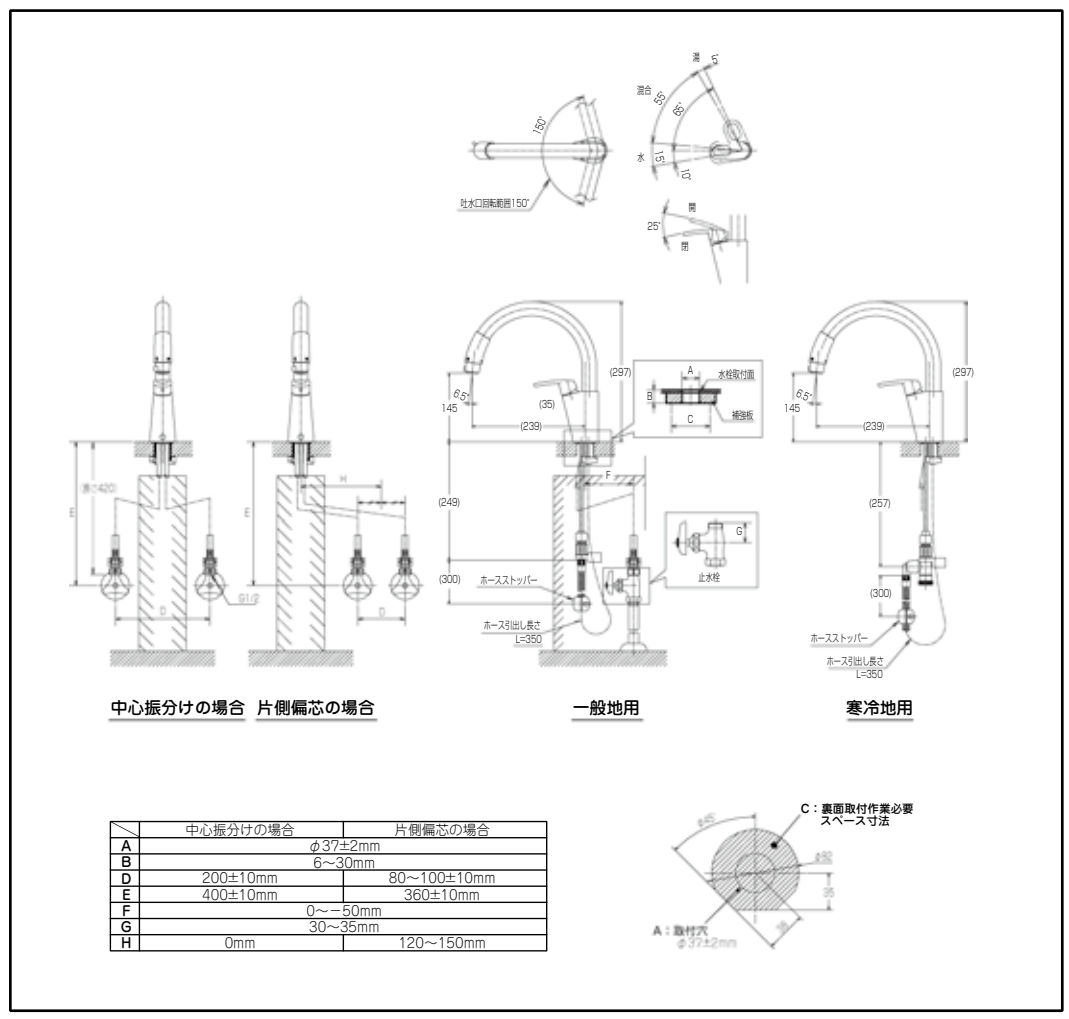
カウンター裏面に補強材を使う場合は、木製のボードを使用してください。珪酸カルシウム板は使わないでください。本体が正しく固定できないことがあります。
やむをえない事情で珪酸カルシウム板を使用する場合は、別売のA-3811を使用して取り付けてください。

その他の注意点

●給水は上水道に接続してください。
※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
●給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
●給湯配管はできるだけ短くし、必ず保護材を巻いてください。
●商品の表面には直接工具を掛けないでください。
※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
●開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。
●必ず**配管中の異物を完全に洗い流してください。**

施工完了図

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。



	中心振分けの場合	片側偏芯の場合
A	φ37±2mm	
B	6～30mm	
D	200±10mm	80～100±10mm
E	400±10mm	360±10mm
F	0～−50mm	
G	30～35mm	
H	0mm	120～150mm

※湯水の止水栓（配管）の間のC範囲（▨部）には、分岐配管や障害物がないようにしてください。ホース出入れの障害になります。

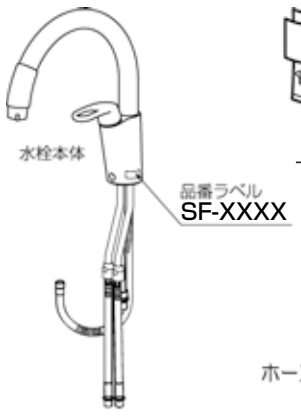
株式会社 LIXIL

●商品・施工方法についてのお問い合わせ
お客さま相談センター 商品相談窓口
ナビダイヤル TEL 0570-01-7173

受付時間　平日　9:00～18:00
土日・祝日　9:00～17:00
（ゴールデンウィーク、夏期、年末年始の休みは除く）

※ナビダイヤルは、PHS・IP電話などでご利用になれない場合があります。
TEL 0562-31-0793 をご利用ください。

部品の確認



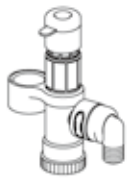
上面施工金具

ソケット×2
（スーパークイックジョイント）

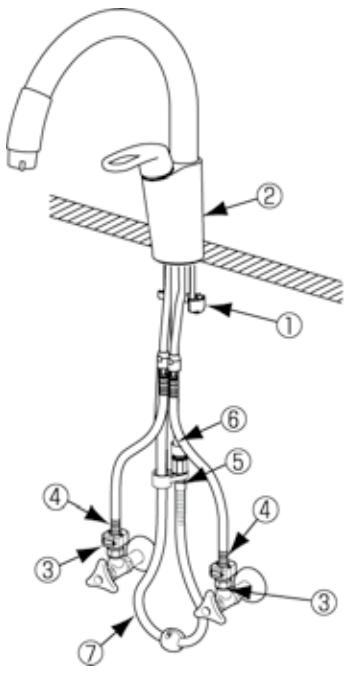
ホースストッパー

ホースガイド付
カプラー式ソケット
（逆止弁付）

【寒冷地用の場合】


水抜栓付カプラー式
ソケット（逆止弁付）

施工手順

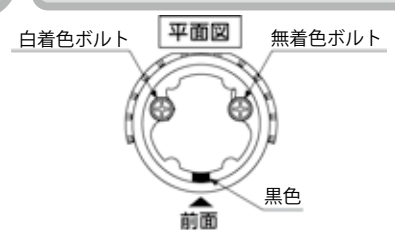


①上部施工金具の取付け
②水栓本体の取付け
③ソケットと止水栓の接続
④給水･給湯ホースとソケットの接続
⑤カプラー式ソケットとホースの接続
⑥カプラー式ソケットとプラグの接続
⑦ホースの収納性の確認

2.施工方法

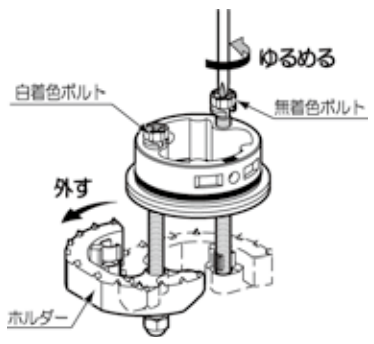
以下の手順通り、正しく取り付けてください。

① 上面施工金具の取付け

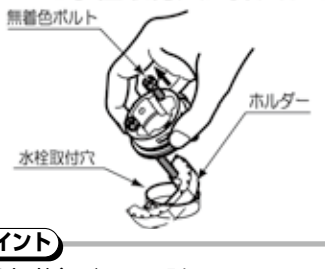


注 意 **上部施工金具は向きに注意して、正しく取り付けてください。**
※正しく取り付けないと水栓本体の固定強度が低下するなど、不具合の原因になります。

1. 無着色のボルトをゆるめ、ホルダーを外す。

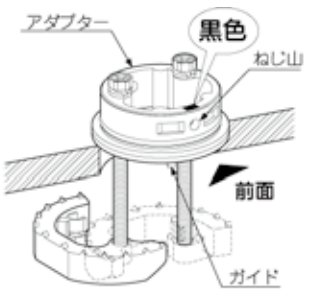


2. ホルダーを水栓取付穴に挿入する。

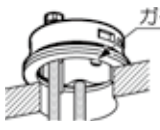


ポイント
- 無着色ボルトは引っかからないように少し引っぱり上げておく。
- ホルダーがカウンター裏面の障害物に引っかかり、正しい位置に取付けできない場合は、白着色ボルトを数回左右に回してください。

3. アダプターの黒く塗った部分が前方を向くように位置決めをする。

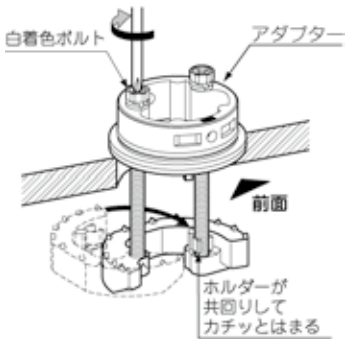


確 認

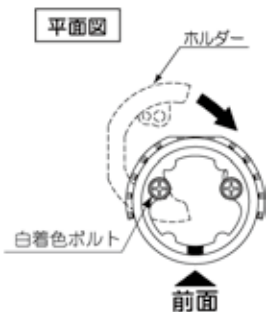


4本のガイドが取付穴に確実に入っていること。

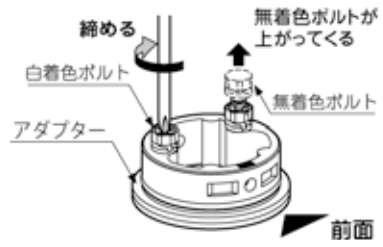
4. アダプターを手で押さえ、白着色ボルトを1～2回転締める。

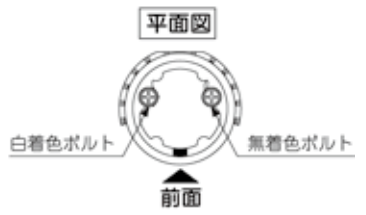


注 意 **ゆっくり回してください。**
※高速回転はしないでください。正しく施工できなくなる恐れがあります。



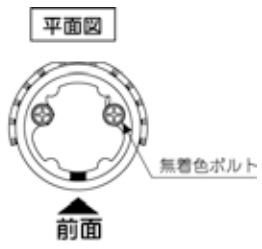
5. アダプターを手で押さえ、白着色ボルトをしっかりと締める。



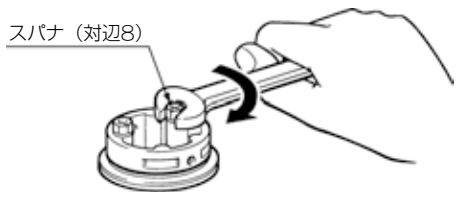


6. 無着色ボルトをしっかりと締める。

ポイント
各ボルトを交互に締め付け、締付力が均等になるように。



7. スパナでそれぞれのボルトを約1/2回程度増締めする。

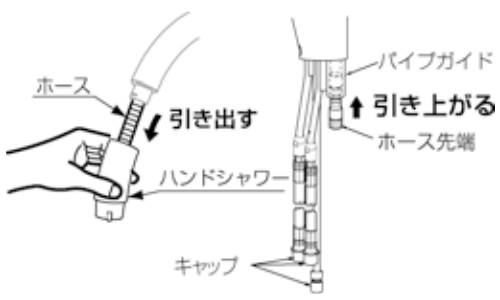


注 意 締め付けすぎないでください。

確 認
アダプターのぐらつきがないこと。

② 水栓本体の取付け

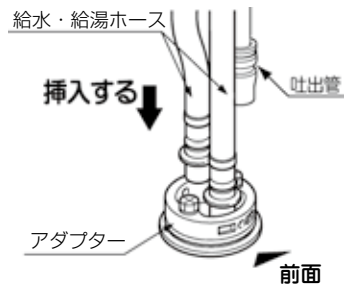
1. ホースの先端がパイプガイドの中にかくれるまで、ハンドシャワーを引き出す。



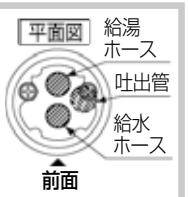
注 意 **落下注意！**
※傷や破損の原因になります。

- **先端のキャップはそれぞれ接続する直前まで外さないでください。**
  ※Oリングに傷がついたり、ゴミがかみ込むことで、漏水の原因となります。
- **ハンドシャワーを引き出し過ぎないでください。**
  ※ハンドシャワーが戻りにくくなります。

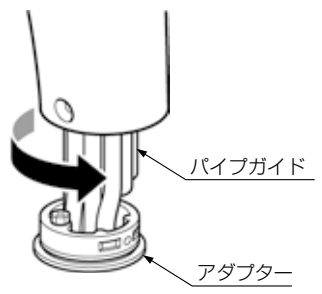
2. 給水･給湯ホースの先端を横並びにし、さらに上下にずらしてアダプターに挿入する。



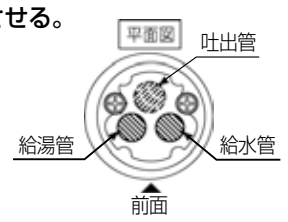
ポイント
- 給水･給湯ホースを右図のように横並びにして挿入する。
- 横並びにしただけでは、給水・給湯ホースの先端がアダプターに干渉し挿入できません。



3. パイプガイドがアダプターに当たる手前で水栓全体を右へ回す。

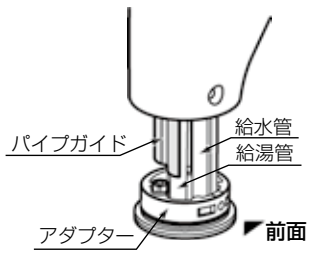


ポイント
吐出管が後ろ側にくるまで回転させる。

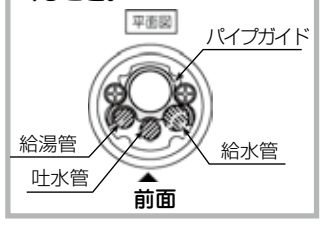


注 意 **水栓全体が回転可能となる前に無理に回さないでください。**
※給水・給湯管等が破損し、漏水の原因となります。

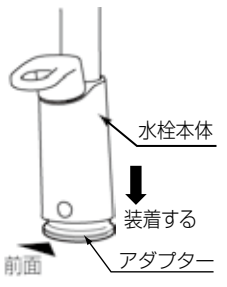
4. そのままの向きで、パイプガイドを挿入する。



ポイント
パイプガイドが後ろ側にくること。

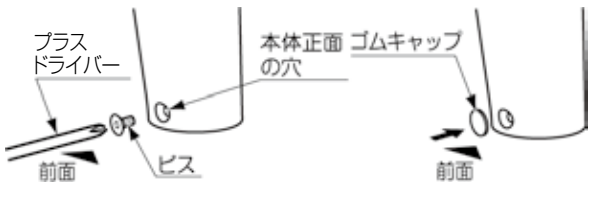


5. 水栓本体をアダプターに装着する。



6. 水栓本体を固定する。

① ビスでしっかりと固定する　② ゴムキャップをはめる



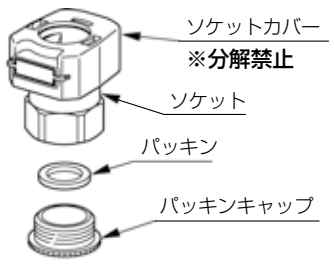
確 認
水栓本体にぐらつきがないこと。

③ ソケットと止水栓の接続

当製品はスーパークイックジョイントを採用しています。スーパークイックジョイントは、給水・給湯ホースを差し込むだけでワンタッチ接続できます。

以下の注意事項を必ず守ってください。

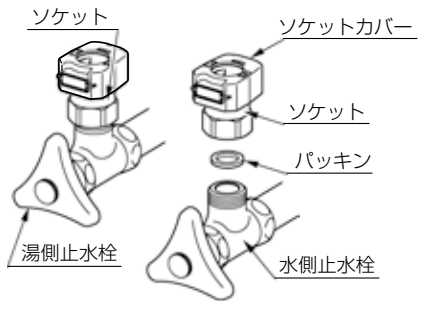
1. パッキンキャップを取り外す。



注意 **パッキンの紛失に注意してください。**
※漏水の原因になります。

ソケットカバーを外さないでください。
※接続できなくなります。

2. ソケットを止水栓に固定する。

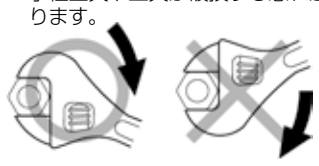


注意 **締付けは、ソケット本体に工具を掛けてください。**
※ソケットカバーを持って締付けたり、工具を掛けると、破損し、漏水の原因になります。

注意 **締付後のソケットの向きは、図と異なる場合があります。**

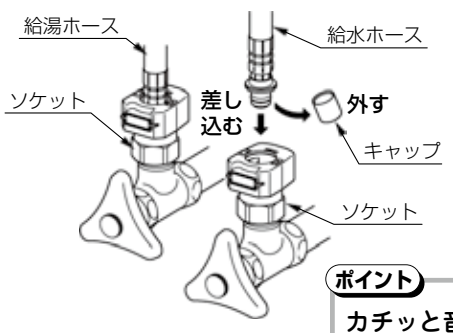
注意 **●ソケットの締付けにモンキーレンチを使用する場合は、先端の幅を袋ナットの2面幅に合わせてください。**
※締付け不足により、漏水の原因となります。

●ソケットの締付けにモンキーレンチを使用する場合は、工具の向きにご注意ください。
※締付け不足により、漏水の原因となります。
※水栓金具や工具が破損する恐れがあります。

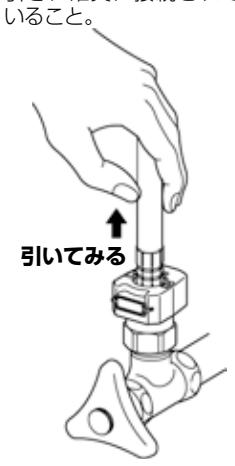


④ 給水・給湯ホースとソケットの接続

1. 給水・給湯ホースをソケットに差し込む。



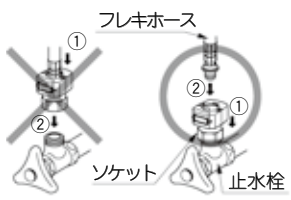
確　認
確実に接続されていること。
※給水・給湯ホースを上に引き、確実に接続されていること。



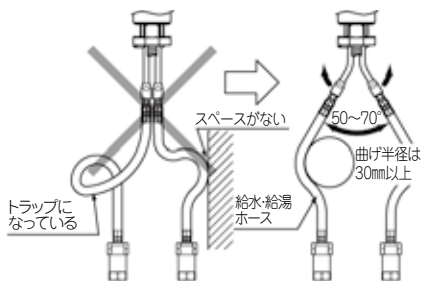
ポイント
カチッと音がするまで差し込む。

注意 **Oリングに傷をつけたりゴミかみがないよう注意してください。**
※漏水の原因となります。

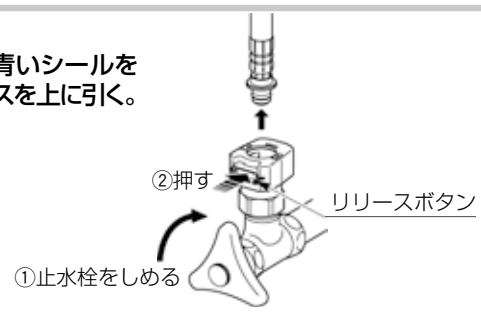
注意 **●必ずソケットを止水栓に固定してから、給水・給湯ホースを接続してください。**
※漏水の原因になります。



●ホースを曲げる場合は、曲げ半径30mm以上確保してください。ホースの曲げ半径が小さい場合は、銅管を曲げて調節してください。
※漏水の原因になります。

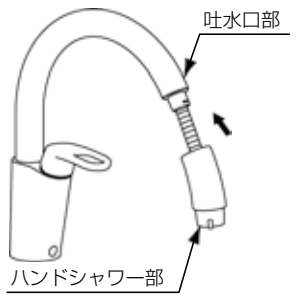


ポイント
ホースを外す場合は止水栓を閉めて、青いシールをはがし、リリースボタンを押しながらホースを上に引く。



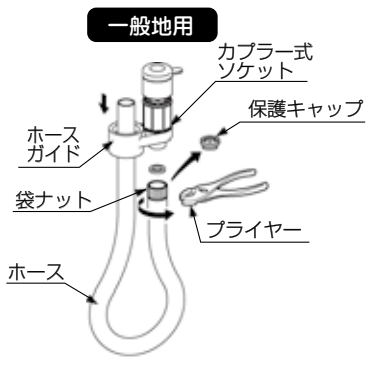
⑤ カプラー式ソケットとホースの接続

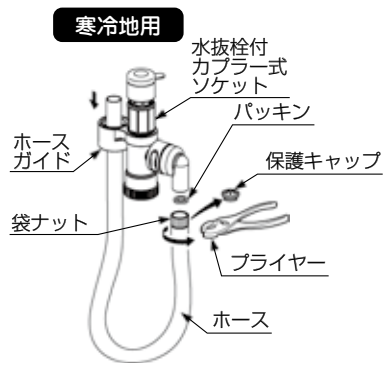
1. ハンドシャワー部をハンドシャワー部引出口に納める。



ポイント
ホースが抜けて入れにくい場合は、ホースを押しながら回転させる。

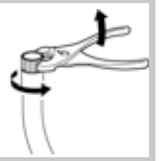
2. ホースガイドに矢印の向きにホースを通し、袋ナットをカプラー式ソケットに接続する。





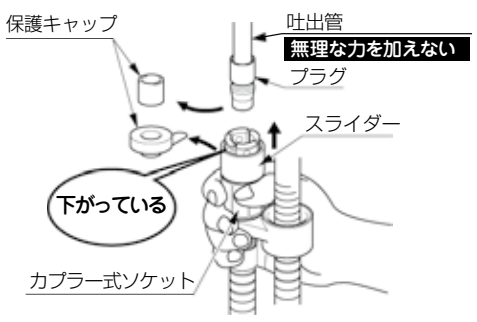
注意 **パッキンの紛失に注意してください。**
※漏水の原因になります。

ポイント
手締め後、プライヤーで半回転～3/4回転増し締めする。(参考トルク:2～3N･m)
※強く締付けすぎると樹脂部品が破損する恐れがあります。
※カプラー式ソケット(水抜栓付カプラー)は手で持ってください。



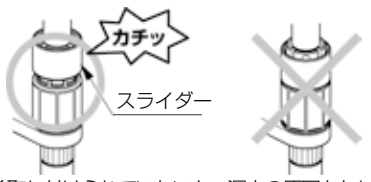
⑥ カプラー式ソケットとプラグの接続

1. 保護キャップを外し、カプラー式ソケットのスライダーが下がっていることを確認して、プラグに挿入する。



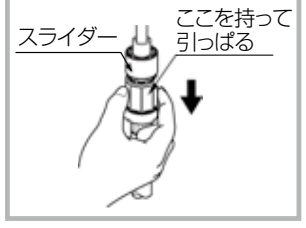
ポイント
取り外す場合は、スライダーを下にずらしながら、カプラー式ソケットを下げる。

注意 **●カチッと音がするまでしっかりと差し込んでください。**
●スライダーが上がっていることを確認してください。

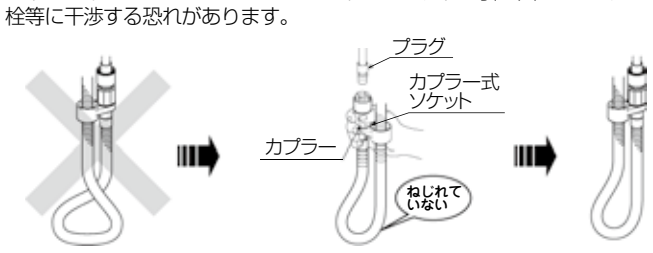


※正しく取り付けられていないと、漏水の原因となります。

確　認
カプラー式ソケットのスライダーより下の部分を引っ張って、抜けないこと。

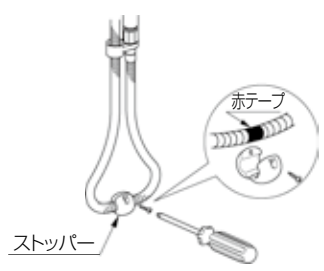


注意 **シャワーホースがねじれないように、接続してください。**
ねじれる場合は、プラグからカプラー式ソケットを取り外し、シャワーホースのねじれを取り除いてから、再度プラグに取り付けてください。
※シャワーホースがねじれていると、シャワーヘッドの引き出しが重くなったり、止水栓等に干渉する恐れがあります。



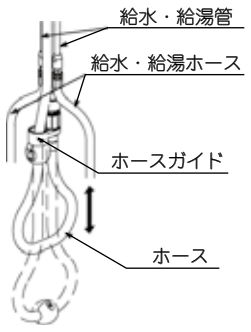
2. ストッパーを赤テープを覆うように取り付ける。

ポイント
ハンドシャワーは吐水口に納めた状態で行う。



⑦ ホースの収納性の確認

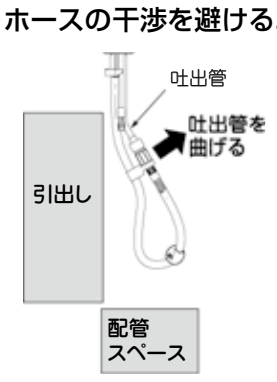
1. ハンドシャワーを出し入れし、ホースが、 給水･給湯ホースや他の配管等と干渉せずにスムーズに上下に動くことを確認する。

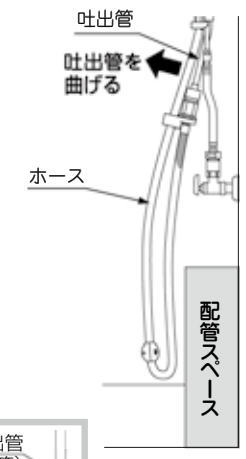


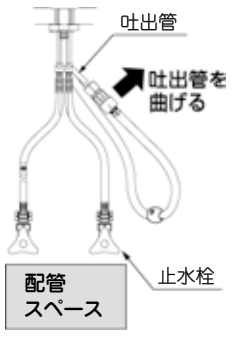
ポイント

- ●ホースがねじれていない状態で、給水・給湯ホースと干渉する場合は、給水・給湯管を、軽く曲げてホースの干渉を避けてください。
- ●ホースが他の配管等と干渉し、ホースがスムーズに上下しない場合は、ホースガイドを回転させて、ホースとの干渉を避けてください。

2. ホースが引出し、配管スペース、止水栓などに干渉する場合、吐出管を軽く曲げて、ホースの干渉を避ける。





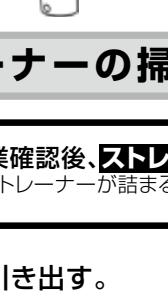


確　認

ホースがスムーズに上下に動くこと。

ポイント

カプラー式ソケットを接続した銅管が吐出管です。



注 意

吐出管を曲げる場合は、曲げる角度を30°以下としてください。

※無理に曲げると吐出管が損傷し、漏水の原因になります。

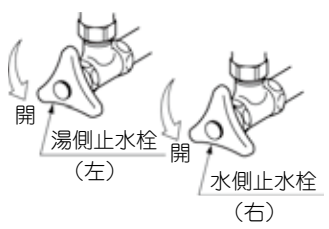
3.施工後の調整

以下の手順通り正しく調整してください。

1 通水確認

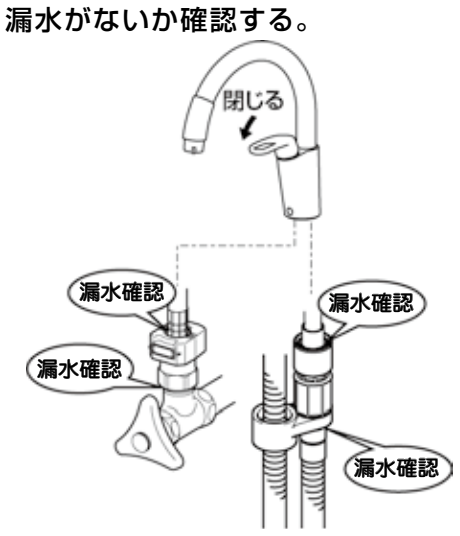
通水確認を以下の要領で行ってください。

1. レバーハンドルが閉じていることを確認し、給水･給湯の止水栓を開く。



2. 水側･湯側それぞれの位置でレバーハンドルを開け、通水確認する。

3. レバーハンドルを閉じ、接続部からの漏水がないか確認する。



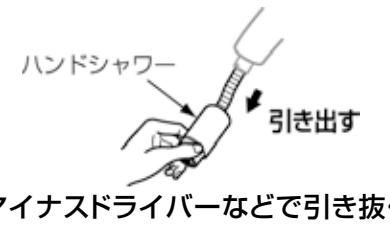
2 ストレーナーの掃除

注 意

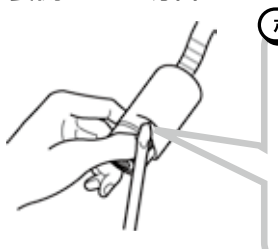
作業確認後、ストレーナーを必ず掃除 してください。

※ストレーナーが詰まると流量が少なくなり、十分な機能が発揮されません。

1. ハンドシャワーを引き出す。



2. 裏側にある切替ユニットストッパーをマイナスドライバーなどで引き抜く。



ポイント

切替ユニットストッパーは、片側にドライバーなどでとり外すための溝があります。ドライバーを溝に掛けて取り外してください。

3. 切替ユニットを外し、ストレーナーに付いたゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。

ストレーナー

注 意

切替ユニットが固くて外しにくい場合がありますが、切替ユニットは回転させず、引き抜いて外してください。

※無理に回転させると、切替ユニットが破損する恐れがあります。

4. 切替ユニットを取り付ける

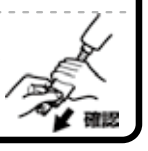
ポイント

取り付けるときは、位置合わせの向きを合わせるように差し込む。

注 意

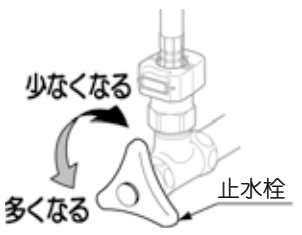
- ●切替ユニット素突破を取り付けるときは、溝が吐水口側になるようにしてください。

- ●取り付け後は切替ユニットが抜けてこないことを確認してください。



3 流量の調節

水栓の機能を十分発揮させるため、水圧が0.2MPa(2Kgf/cm²)を超える場合は、湯水の流量が同じになるように、シンク下の水側の止水栓を絞ってください。
レバーハンドルを全開にしたときシャワーの流量が湯と水でそれぞれ約8L/min(1リットルの容器をいっぱいにするのに約9秒)になるよう止水栓で流量調節をしてください。



ポイント

湯と水の流量が同じになるように調節する。

4.引渡前の確認

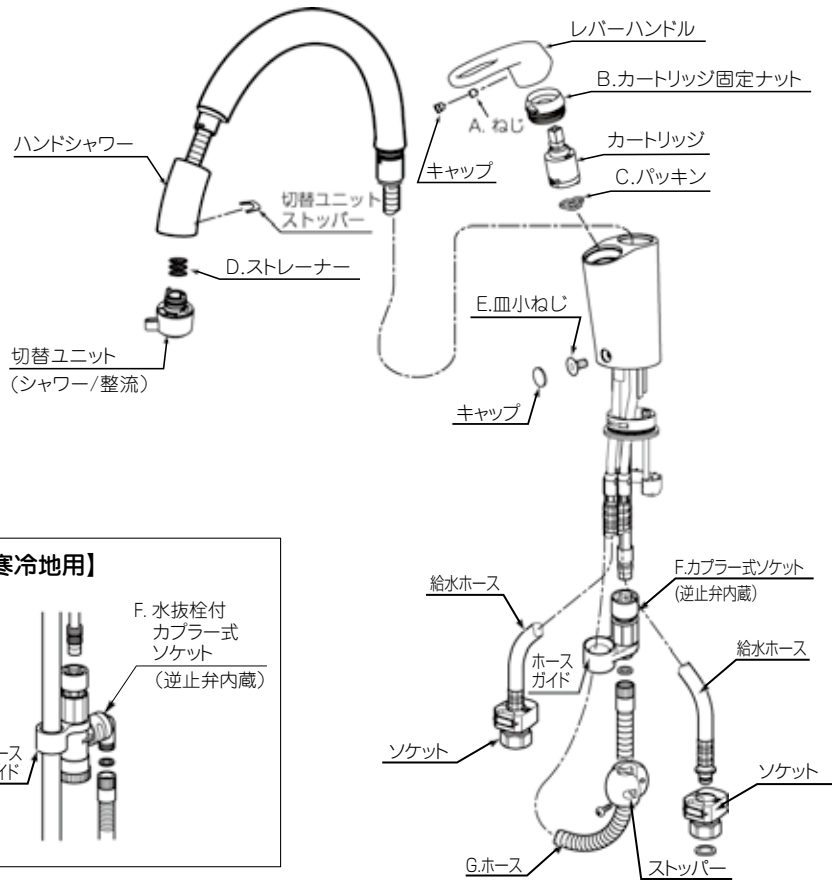
引渡前および故障時の点検は以下の要領で行ってください。

現　　象	点　　検　　内　　容	点検箇所	処　　置
流量が少ない	圧力は十分か?	－	施工の前に「本製品の使用と条件」
	止水栓は十分開いているか?	－	施工後の調整「流量の調節」
	ストレーナーにゴミ詰まりはないか?	D	施工後の調整「ストレーナーの掃除」
	配管途中に大きな抵抗はないか?	－	
水が止まらない※1	ゴミかみはないか?	C	
	キズはないか?	C	
	ゆるみはないか?	B	
希望の温度が得られない	圧力は十分か?	－	施工の前に「本製品の使用と条件」
	流量調節はよいか?	－	施工後の調整「流量の調節」
	ストレーナーにゴミ詰まりはないか?	D	施工後の調整「ストレーナーの掃除」
水栓本体がガタつく	ゆるみはないか?	E	
ハンドルがガタつく	ゆるみはないか?	A	
ホースがスムーズに収納できない	シンク内でホースがねじれたり、配管と干渉していないか?	F･G	施工方法「ホースの収納性の確認」

ポイント

※1　以下の現象は、故障ではありません。

水を止めた後に少しのあいだ水が垂れますが、切替ユニット内部に溜まった少量の水が排出されるためで、故障ではありません。



【寒冷地用】